

事務所訪問

市街地と港湾に直結する インターチェンジがもたらす 効果と期待

北海道縦貫自動車道(道央自動車道) 苫小牧中央IC

令和2年12月13日(日)午後3時、道央自動車道苫小牧中央インターチェンジ(IC)が開通した。同ICは、苫小牧市中心部から北に約5kmに位置し、一般国道276号に接続。開通により、渋滞の解消など物流の効率化や2次医療機関などへの搬送時間の短縮など地域にとって様々な効果が期待されている。NEXCO東日本北海道支社とともに整備を進めてきた北海道建設部にお話を伺った。



北海道建設部土木局道路課
高速道・市町村道担当課長
塩田 雅史 氏

—事業概要を教えてください。

苫小牧中央ICは、苫小牧西ICと苫小牧東ICのほぼ中央に位置しています(図1)。道央自動車道と国際拠点港湾である苫小牧港や市街中心部を直結する地域活性化インターチェンジです。北海道全体における貨物取扱量の約半数を占めている苫小牧港と道央道が直結されることにより、物流の効率化をはじめ、新たな企業の立地促進など、様々な経済波及効果が考えられます。さらには苫小牧市周辺及び日高方面等からの救急搬送の迅速化など、広域医療への貢献や災害時の避難経路としての効果も期待されています。



図1 道央自動車道 苫小牧中央ICの場所

出典：北海道ホームページ(建設部/土木局道路課)

開通に向けては、苫小牧地方総合開発期成会や日高総合開発期成会をはじめとした各団体からの要望のほか、苫小牧地方の経済界や住民を中心に「苫小牧中央インターチェンジの早期設置を求める署名活動」が展開され、約2万5600筆の署名が苫小牧市へ提出されました。また、町内会連合会からも苫小牧市に毎年、「苫小牧中央ICの早期実現」が要望されており、これら市民など多方面からの声を受け、苫小牧市から北海道に要望されていました。

表1 道央自動車道 苫小牧中央ICの整備事業

事業期間	平成28年度～令和2年度
計画延長	L=1,181.8m(総延長L=3,081.8m)
計画幅員	1方向1車線ランプ W=7.0m (2.50+3.50+1.00) 2方向2車線ランプ W=14.5m (2.50+3.50+2.50+3.50+2.5)
構造規格	ランプ規格1種A規格
設計速度	V=40km

—令和2年12月の開通まで、どのような計画で工事が進んだのでしょうか。

平成26年7月に道道認定、平成27年5月に道による公共事業(大規模等)事前評価が行われ、平成28年6月には国からインターチェンジ設置の許可が下りました。その年の12月にNEXCO東日本と基本協定を締結、平成29年7月には本工事に着工しました(写真1)。途中、大きな計画変更もなく、予定通りのスケジュールで進行し、令和2年12月に完成しました(表1)。



写真1 切土工事の際に現れた樽前山噴火に伴う地層

——開通前の地域の課題を教えてください。

苫小牧市は、北海道の空の玄関口である新千歳空港、海の玄関口である苫小牧港を擁し、道央自動車道・日高自動車道、一般国道36号などの広域幹線道路により、人流・物流の結節点となっています。その一方で、市街地が東西方向に長い都市構造となっているため、東西に延びる幹線道路に、広域的な通過交通に加え日常の通勤や買物などの生活交通が集中し、渋滞が発生するなど利便性の低下を招いていました。

また胆振、日高地域は、2次医療機関や産科・産婦人科病院が少なく、特に出産に関しては地域周産期センター機能を有する苫小牧市に強く依存している状況です。健診や出産の際は長距離移動が必要になるため、苫小牧市立病院などへの移動時間短縮などが大きな課題でした。

——開通に伴う交通量の変化などを教えてください。

苫小牧中央IC利用者は今まで苫小牧東ICおよび苫小牧西ICを利用していた方の転換に加え、苫小牧市中心部への利便性向上による新たな利用者の増加などで約4,400台／日(4月～6月平均)が利用しています(写真2)。苫小牧中央ICの利用者数は、苫小牧東IC、苫小牧西IC、苫小牧中央IC利用者合計の約4割を占めており、その利用者の利便性向上に寄与していると言えるでしょう。

コロナ禍前の令和元年6月と令和3年6月を比較すると、

道央道全体の利用率が約30%落ち込んだのに対して、3つのICの利用率は約15%程度の落ち込みにとどまっています。一般道の渋滞緩和などの交通状況変化については、コロナ終息後の観光需要などの回復後を注視していかなければならぬと思っています。



写真2 苫小牧中央ICの料金所

——工事中に予期せぬことやご苦労された点はありましたか。

該当区間に埋蔵物が確認されたため、工事着手前の発掘調査を行わなければならず、この調査を踏まえた事業工程の見直しが必要になりましたが、早期完成が望まれている事業だったため、工期の遵守などについて検討しました。

時間を要する大規模土工($V=50\text{万m}^3$)に早期着手できるよう、発掘調査の範囲や期間を把握するとともに、調査に向けた準備(伐採等)の実施や、北海道教育委員会などの関係機関との調整を急ぎました。

また施工範囲を詳細に分けて工程管理を行い、測量作業や大規模土工ではICTの積極的な活用により、施工の精度向上と効率化を図りました。

平成30年の北海道胆振東部地震の災害復旧作業により、土砂搬出のためのダンプトラックの確保が困難になることが予想されたため、ゼロ国債等を活用するなどして発注時期を調整しました。また、胆振総合振興局林務課への保安林解除申請、国道との交差点について国土交通省北海道開発局と協議や、埋蔵物保護について北海道教育委員会との話し合いの他、苫小牧市やNEXCO東日本との調整などを行いました。

——開通によって地域の課題はどのように解決されましたか。また整備効果について教えてください。

高速道路網と苫小牧市の中心市街地および苫小牧港とのアクセス向上により、東西方向の幹線道路が混雑した際には、迂回路としての利用も可能となりました(図2)。苫小牧中央ICの利用交通約4400台／日は、並行する一般国道36号や道道などから転換したものと考えられ、市街地の交通混雑の緩和が図られました。

主な整備効果については、まず、広域分散型社会を形成している北海道において、規格の高い道路で主要都市間を連絡し、拠点的な空港・港湾へのアクセスルートを形成することができます。物流の輸送時間短縮や安定供給につきましても、走行速度が低下する市街地部を回避可能なルートが形成され、道内各地から苫小牧港へ向かう物流の効率化及び安全性向上が期待されます。さらに、道内有数のフェリー港である苫小牧港から高速道路へのアクセスが向上し、観光客の利便性向上や北海道の周遊観光のさらなる活性化が期待されます(図3)。

また、医療の面では、例えば、厚真町やむかわ町から

苫小牧市内の病院に患者を搬送する場合、これまで日高自動車道の沼ノ端東ICから信号交差点の多い一般道を走行していましたが、今後は、病院近傍に位置する苫小牧中央ICまで高速道路を使用することが可能となり、搬送時間の短縮や患者への負担軽減になると考えています。

——開通から半年ほどで感じられる効果や利用者などの声もお聞かせください。

苫小牧市は大規模地震発生時の津波浸水範囲が広く、また樽前山が噴火する可能性もあります。市外の防災拠点と苫小牧市のアクセス性が向上することによる防災機能の強化は、地域住民の暮らしにとっても大きいのではないでしょうか。また、周辺自治体から市内中心部の大型商業施設へのアクセスが改善され、日常生活上の利便性も向上しました。同様に、医療施設への救急搬送時間が短縮されています。

経済面でも、苫小牧港利用の物流の効率化や、札幌との往来時間の短縮が大きなメリットになっています。



図2 苫小牧港および苫小牧市内の高次医療機関。苫小牧中央ICから近い場所に集中していることがわかる
出典：北海道ホームページ(建設部/土木局道路課)

■フェリー利用者の声より

- ・フェリーの乗り場から高速道路まで時間がかかる
 - ・苫小牧中央ICができれば時間短縮が図られ、便利になると思う

【ウポポイ(民族共生象徴空間)】



提供：公益財団法人 アイヌ民族文化財団

【樽前山】



【名馬の馬産地ひだか】



資料：各港統計年報

図3 苫小牧市周辺の主な観光地

出典：北海道ホームページ（建設部/土木局道路課）

——コロナ禍での開通式となりました。当日の様子はいかがでしたか？

開通式は令和2年12月に行われました(写真3)。苦小牧市民会館で開かれた式典には、コロナ対策として定員約1,600人規模の会場を確保し、ソーシャルディスタンスに十分配慮しながら、鈴木直道知事をはじめ国會議員や近隣自治体首長ら約140人にご出席いただきました。テープカットやくす玉割りを実施後、現地JCに

移動し、通り初めには関係車両約50台が参加。開通前には60台を超える一般車両が列を成していて、利用者からの期待を実感しました。

——苫小牧方面の道路整備における今後の展望や新たな課題などについてお聞かせください。

高速道路への効率的なアクセスを確保することで、物流の効率化による港湾取扱貨物量の増加や新規企業立地の増加など、地域経済の活性化や、雇用の創出が図られることを期待しています。また、コロナ後の観光需要回復に伴う交通量の増加や、フェリーを利用した北海道の広域的な周遊観光の発展にも寄与すると期待されています。

今後は、当該ICの整備効果によるさらなる交通量の増加や交通流の変化による周辺道路の渋滞などが懸念されるため、南北ネットワークの強化など、交通の円滑化の向上に向けた課題の把握や検討を進めていきます。



写真3 開通式の様子